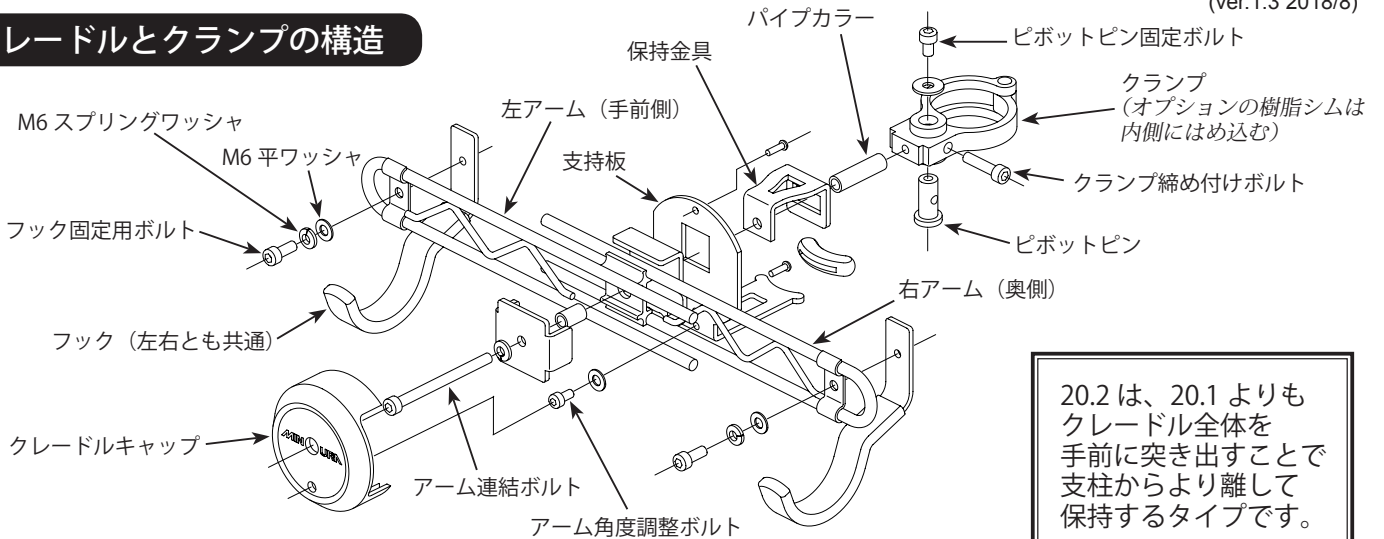


クレードルとクランプの構造



20.2 は、20.1 よりもクレードル全体を手前に突き出すことで支柱からより離して保持するタイプです。

クレードルの装着のしかた

- 1** クランプはクレードルに装着された状態で梱包されており、このまま支柱に取り付けていただきます。クランプは取り外さないでください。

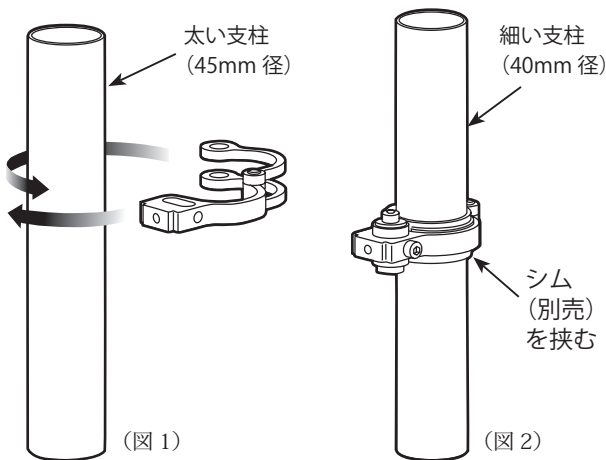


アーム連結ボルトを抜いてクレードルとクランプとを分離してしまうと、クレードルはバラバラに分解してしまいます。アーム連結ボルトは決して抜かないでください。



クランプには左右の方向性はありませんが、ピボットピンは必ず下から挿入され、ピボットピン固定ボルトは上からねじ込まなければなりません。

- 2** クランプの側面からねじ込んである締め付けボルトを抜き、ピボットピン固定ボルトを抜いてピボットピンも抜き、クランプを開けられるようにしてから、支柱に巻き付けます。(図1)



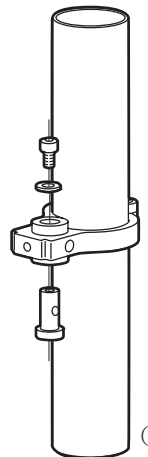
(クランプの説明のため、ここではクレードルを見せていません)

- 3** 重ね合わせたクランプの下側から3つの孔すべてを通してピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。(図3)



ピボットピンを上から通してしまうと、六角レンチでボルトを回せなくなります。

ピボットピン固定ボルトはまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行えなくなってしまいます。

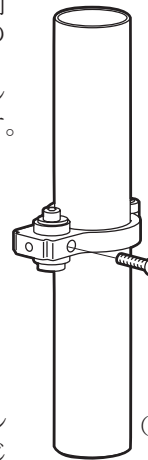


(図3)

- 4** ピボットピンを回して、ピンの側面にあるネジ孔とクランプ側面の孔とを合わせます。その状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。(図4)

- 5** 先に側面からのクランプ締め付けボルトを、続いて上からのピボットピン固定ボルトを **8N.m** で締め込んで固定します。

- 6** 最後に左右のフックをクレードルアームの端の金具にボルトをねじ込んで取り付け完成です。(フックは先に取り付けておいても構いません)



(図4)

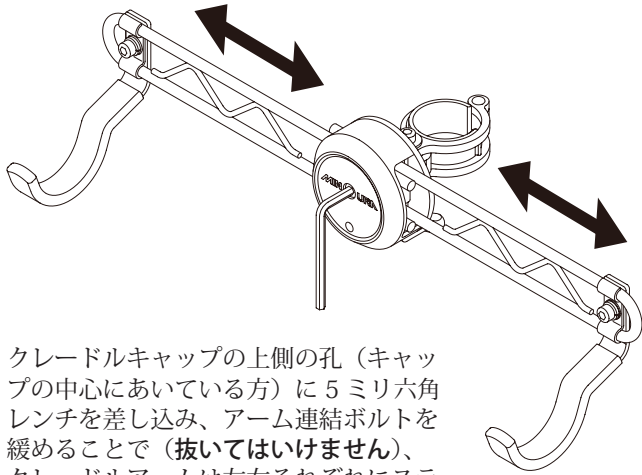


細い40mm径の支柱にクランプを取り付ける場合のみ、先に支柱にグレーの樹脂シム(別売)を取り付け、その上からクランプを巻いて装着します。クランプの1本アームがシムの2列の突起の間に収まるようにします。(図2)
以前のバイクタワー10に比べて、その後のバイクタワー20や25Dといったモデルでは細い40mm径支柱はほとんど常用域には出てこなくなりましたので、樹脂シムは標準添付ではなく別売としています。あらかじめご承知置きください。

クレードルの位置・角度調整

搭載する自転車のフレームサイズや形状に合わせられるよう、アームは325～415mmの範囲内（フック固定ボルトの間隔）で左右それぞれにスライド、また一体で上下10度の範囲内で右上がりまたは左上がりに傾けてセットすることができます。

アームの左右スライドのしかた



クレードルキャップの上側の孔（キャップの中心にあいている方）に5ミリ六角レンチを差し込み、アーム連結ボルトを緩めることで（抜いてはいけません）、クレードルアームは左右それぞれにスライドさせることができます。調整が終わったら再びボルトをしっかりと締めて固定します。

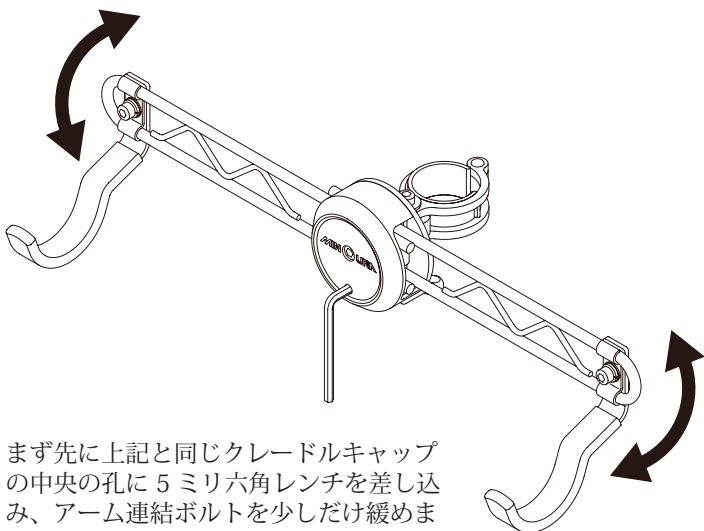


限度以上にアームを引っ張らないでください。アームが抜け、クレードルが分解してしまいます。アームは前後から挟んでいる金具よりも内に引き込まないようにしてください。いったん分解させてしまったクレードルは、クランプから切り離してクレードルキャップを取り外さないと組み直せません。



自転車を搭載したままの状態でもアームのスライド調整を行わないでください。アームが抜けた拍子に自転車が落下する恐れがあります。

アームの角度調整のしかた



まず先に上記と同じクレードルキャップの中央の孔に5ミリ六角レンチを差し込み、アーム連結ボルトを少しだけ緩めます。

次に、下側の孔に六角レンチを差し込み、中にあるボルトを緩めることで、クレードルアームは左右連結した状態で上下に傾けることができます。

調整が終わったら再び両方のボルトをしっかりと締めて固定します。

自転車を掛ける

バイククレードルに自転車を搭載するには、フックを自転車フレームの下に掛けます。一般的には両方のフックでトップチューブを受けるように掛けますが、トップチューブの傾斜がきついスローピングフレームやクレードルを斜めに設定した場合は、片側のフックをシートチューブとシートステーとの交差部の下に掛けて位置決めしてやり、残りをトップチューブ下で受けるようにすると安定します。



自転車を前上がりの姿勢にしてしまうと前輪の重さでハンドルが勝手に切れ込んできて、ブレーキレバーがフレームに当たったり周囲のものを引っかけたり指などを挟んでしまうトラブルを起こす恐れがあります。

この問題を防ぐためには自転車を水平よりやや前下がりの姿勢にするか、あるいはダウンチューブと前輪とをストラップなどで結んで動かないようにするなどの措置が必要です。



フックによるフレームへの色移り問題は皆無ではありません。心配な方はフックが直接フレームに接しないよう、バーテープの切れ端などを間に挟むなどして対処してください。

注意していただきたいこと

もし万一クレードルをクランプに取り付け直さなければならぬ場合は、クランプ側の長方形の突起を支持板の長方形の孔に正しくはめ込んでください。

そして上から見てクレードルが正しくクランプに直角になっていることを確認しながら、アーム連結ボルトをクランプにねじ込んで取り付けます。

クレードルが少しでも傾いた状態になっていると、ボルトはクランプのネジ穴に対して斜めにねじ込んでしまうことになります。

もし途中でねじ込みが止まってしまうようなら、無理してねじ込まず、必ず一度抜いてからやり直してください。

クランプはアルミ製で軟らかいので、誤って斜めにねじ込んでしまいネジ穴を破壊してしまうと、クランプをまるごと交換しなければならなくなります。

保証期間

本商品の品質保証期間はご購入求めから1年間です。期間内に発生した製造側に瑕疵のある不具合に対してのみ部品の無償交換等の対応をさせていただきます。詳しくは弊社ウェブサイトをご参照ください。

お問い合わせ先

株式会社 箕浦

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1

Phone: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505

infodesk@minoura.jp

www.minoura.jp

日本製